

地表に刻む自然改造の巨大な爪跡

工期内完成をめざして昼夜兼行の牧尾ダム建設現場。全体工事進度は現在すでに70%を越え、ダム周辺の様相は一変して、昔日のおもかげはもはやしのぶよすがもない。(写真は朝日新聞名古屋本社提供)

Big Scratches showing natural improvement in cutting ground surfaces (Makio Dam)



- ①ダム本体 ②余水吐 ③バイパス出口
- ④六段橋 ⑤付替県道 ⑥付替林鉄
- ⑦王滝川

牧尾ダム

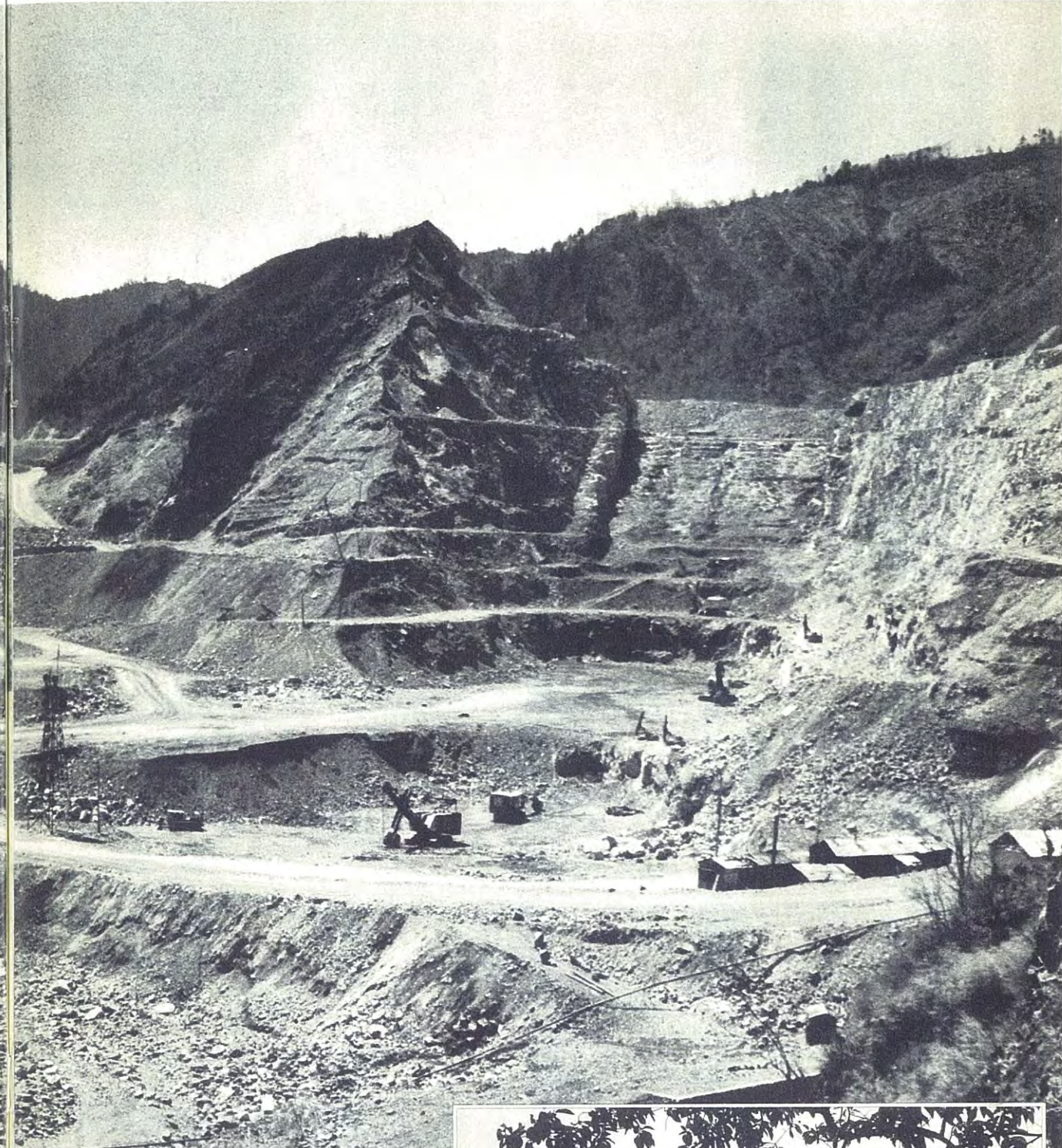
MAKIO DAM



▲中央やや左がダム本体、右は余水吐

昨年夏からダム本体の築堤を開始した牧尾ダムは、好天に恵まれた本冬期間に順調な進行をみせ、予定どおり36年3月までの全工事完成は確実となった。完成と同時に貯水を開始するが、したがって来年夏には総貯水量7.500

万トンの一大人造湖が、この木曾谷に出現するわけである。余水吐のコンクリート打ちも順調に進んでいるので、今年の秋には美しく巨大なオージーカーブが、牧尾ダムの偉容に一段の精彩を加えるであろう。



▶ 34年夏、仮締切ダムを完成した当時の牧尾ダム



余水吐

SPILLWAY

掘削を終った余水吐の溢流堤頂部



下流部正面からみた余水吐

開始されたコンクリート打設

